

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年12月22日更新

事務事業名		在宅医療・介護連携推進事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	2	福祉の健康				所属部	健康福祉部	課長名	出口美子
	施策	7	高齢者の自立と支援体制の充実				所属課	高齢者支援課	担当者名	田野恵子
	施策の柱	27	高齢者の介護予防の推進				所属班	包括支援センター班	(内線)	2151
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	根拠法令	成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果		
終了、開始年度		☐ 28年度で終了 ☒ 28年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 28 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)			

★事務事業の概要(PLAN)

【事業の内容】	住み慣れた地域で最期まで安心して生活が送れるよう、地域包括ケアシステムの実現に向けて、医療・介護サービスの連携を推進するための事業である。高齢者1人が複数のサービス(医療、介護、その他)を利用していることが多く、そのサービスに従事する専門職同士の連携を図っていくための会議や研修会、事例検討などを行う。 平成28年度から菊池都市医師会に一部業務委託し(この事業については医師会との連携が不可欠である)、共同で研修会等の企画・運営を行っている。 また、医療・介護サービスは市だけで完結せず、近隣市町村との連携が重要であるため、菊池市・合志市・大津町・菊陽町で足並みを揃えるべく、医師会には4市町合同で委託を行い、5者間で協議を行っている。 合志市独自で、年に1回、合志市在宅医療・介護連携推進会議を開催し、現場職員の現状や課題抽出のための場としている。
【業務の流れ】	菊池市・合志市・大津町・菊陽町・都市医師会との協議を行いながら、事業を進めていく。専門職向けの研修会の企画・運営・評価、圏域の課題抽出の場の設定、定期的な意見交換、住民向け啓発講演会などを実施する。 最終的な委託事業のモニタリング、評価を行う。
【主な予算費目】	報償費、旅費、役務費、委託料
【意見や要望】	医療機関によって退院調整に差があり、住民が病院から在宅へ戻る際に、十分なサービスの導入が間に合わない場合がある。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分: 新規
① 手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動)(DO) 医師会と4市町合同で医療・介護関係者の連携と資質向上のための研修会を年6回開催した。市独自でも、合志市在宅医療・介護連携推進会議を1月に実施。入退院時の関係調整に関するアンケート調査を実施。市民の理解や意識向上の啓発のためのパンフレットを作成し、配布予定である。		29年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 医師会と4市町合同で研修会を6回開催し、市独自でも在宅医療・介護連携推進会議を開催予定。入退院体制を整えるためのアンケート調査結果を事業に反映していく。市民へパンフレットを使用し周知していく。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
⇒ ア 研修会・会議等の開催回数	回	職員手当の新設と委託料の増額による増。
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
⇒ イ 65歳以上の市民	人	⇒ ア パンフレットによる説明を受けた人数
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
⇒ イ 最期まで住み慣れた地域で安心して生活を送ることができる。	人	⇒ ア ケアマネジメントによる支援を受けた人数
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
相談等の支援により、住み慣れた地域で在宅で最期まで安心して生活できることにつながるため。		全体計画
		～ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移										
		単位	実績(決算)	実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	30年度 予定	31年度 見込	32年度 見込
① 活動指標		回 人			10	9	15	15	15	15
② 対象指標		人 人			20	10	300	300	300	300
③ 成果指標		人 人			500	494	550	550	550	550
投資 事業 入費 量	財源 内訳	国庫支出金	千円		773	491	863	863	863	863
		都道府県支出金	千円		386	245	432	432	432	432
		地方債	千円							
		その他	千円		437	278	487	487	487	487
		繰入金	千円		386	245	432	432	432	432
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円		1,982	1,259	2,214	2,214	2,214	2,214
		(A)のうち指定経費	千円		0	0	165	165	165	165
		(A)のうち時間外、特勤	千円		0	0	165	165	165	165
	人件費	正規職員従事人数	人		0	5	5	5	5	5
		延べ業務時間	時間		0	700	650	650	650	650
	(B) 人件費計		千円		0	0	2,589	2,589	2,589	2,589
トータルコスト(A)+(B)		千円		1,982	1,259	4,803	4,803	4,803	4,803	

事務事業名	在宅医療・介護連携推進事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	---------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部（CHECK）

※原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】 医師会と4市町合同で研修会等の企画・運営し、研修会を年6回実施した。独自でも、在宅医療・介護連携推進会議を開催し、顔の見える関係を築けた。
	②29年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 研修会を定期開催すると共に、パンフレットを使用し市民の意識向上のために周知していく。また、入退院時の関係間調整に関するアンケート調査結果をもとに、施策に反映していくことで在宅生活を継続することを可能にする。
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 パンフレットを作成したことで、これから市民への啓発を活発に行い意識向上を図る。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似事業がないため、事業の統廃合が難しい。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 郡市医師会に一部業務委託しており、ほぼ委託料となるため、削減の余地がない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 この事業を実施するために、必要最低限で行っている。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 住み慣れた地域で最期まで安心して生活していくために、全ての市民が対象となる事業のため、適正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 地域包括ケアシステムを実現するためには、医師会や各種団体との連携が必要であり、行政の役割として適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

郡市医師会と4市町共同で研修会を定期開催し、多くの関係者が集まり顔の見える関係を築くことができた。また、市民啓発のためのパンフレットを作成し、次年度の活動につなげることができた。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☒事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 住み慣れた地域で最期まで安心して生活を送る事を目的に、作成したパンフレットを使用し様々な機会を利用して、市民へ啓発を行っていく。		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		○																				
	維持																						
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 郡市医師会と4市町で今後も協力して事業を推進していく必要があり、定期的に打ち合わせ会議で協議し、目指す方向を統一できるようにしていく。																							